

# 令和元年度 第2回 アドバイザリーボード議事要旨

## 1、出席者

(学識経験者)

氏名	所属・役職	出欠
赤澤 宏樹	兵庫県立大学 教授	
天川 佳美	市民まちづくり支援ネットワーク	
嘉名 光市	大阪市立大学大学院 教授	
永田 宏和	KIITO 副センター長	欠席
福岡 孝則	東京農業大学 准教授	

(地域団体)

福浪 秀光	三ノ宮南まちづくり協議会 総括総務委員	
松岡 辰也	旧居留地連絡協議会 会長	

※その他建設局・都市局・企画調整局・建築住宅局の行政委員 8 名  
基本設計事業者 4 名、にぎわい拠点施設運営事業者 5 名

## 2、前回(第1回)の報告と前回からの進捗状況、ならびに今回の議題の説明

### 1)前回の報告

- ・第1回アドバイザリーボード開催結果参照

### 2)前回からの進捗状況

- ・市のホームページ内の東遊園地再整備のページをリニューアルした。また都心三宮再整備の特設ホームページ内にも東遊園地再整備のページを新設した。
- ・基本設計とにぎわい拠点施設の事業計画のすりあわせについて、双方で情報交換を行うとともに、市も含め3者での打ち合わせを計2度行った。まだ十分すり合わせができていない所もあるため、今日のアドバイザリーボードでも意見をいただく。
- ・都心三宮再整備事業との連携を図るため、三宮再整備の市内部の検討会等において、これまでご議論いただいた計画を提示し調整を行っている。

### 3)今回の議題の趣旨

#### ①にぎわい拠点施設について

にぎわい拠点施設についての事業計画についての説明を行い、説明内容についての質疑を行う。

#### ②公園計画案について

基本設計の進捗状況について説明し、にぎわい拠点施設も含めて議論を行う。

## 3、東遊園地再整備 第2回アドバイザリーボードにおける意見要旨

### 1)にぎわい拠点施設について

- ・にぎわい拠点施設は、すべての方向が表となり、裏がない建築計画である。このため、バックヤードをとることが難しく、運営上の動線と収納・バックヤード配置について、詳細な検討が必要である。
- ・バックヤードは園内の別の場所に設置するトイレと一体化したものでもよい。
- ・にぎわい拠点施設の一番良い場所に気軽に立ち寄れる無料のスペースを設けるなど、施設

が活性化するための工夫をする。(例：ロンドンーセントジェームスパーク)

- にぎわい拠点施設で、一定範囲内での優先利用等の許可業務ができる等、主体的に運営できる仕組みを検討する。
- にぎわい拠点施設で行うイベントの際には、公園利用者で公園トイレの清掃活動を呼びかけるなど、公園を使う側の意識を変える取り組みを期待する。

## 2)公園計画案について

### ■計画案全体について

- 春夏秋冬、朝昼夜、平日休日毎に、利用者が公園をどのように使うかのシュミレーションを、もう少し詳細に行うことで、広場の配置や大きさの有効性を図れるよう検討することが重要である。
- ビューポイントをうまく設定してほしい。特に、旧居留地側と東遊園地北側からの軸線の設定が大事となる。
- 東遊園地内に生じる高低差をうまく活用する(例えば、40 cmであれば椅子の高さ、70 cmであればテーブルの高さとしての活用が可能)。高低差は、フラットな部分と傾斜の部分のメリハリをつけた方が使いやすい。
- 葺合 58 号線(東遊園地の北側と南側の間にある道路)は、両方の園地が一体となるような形状、通行規制等が望ましい。
- フラワーロードと東遊園地の間に構造物(区の花壇・排気口等)がある。リニアに区切る要素を、どの程度間引き、あるいはつなげるかという検討も必要である。
- 東遊園地北西角の交差点部分にある樹木部分をなくすと歩行者空間が広がり、ゆとりがでる。
- 見晴展望台について、演劇・音楽会等、どのような利用が可能かについて精査が必要であり、デッキ構造や材質についても再考する。
- 東遊園地西側中央部の旧居留地側に入る階段の幅について、ここまで広げる必要があるか。また、旧居留地側からの見え方、芝生広場側からの見え方を検討する。
- まちからの東遊園地の見え方と、東遊園地からまちの見え方を検討する。
- 芝生広場の端部部分に人が滞留するので、端部(周辺)部分を丁寧に設計する。気候が厳しい夏場も快適に過ごせる工夫が必要である。
- 現在は、林床が活用できていない状況であるので、樹木の下を利用することにより、広場空間が広がる。
- 慰霊と復興のモニュメントで清掃等のボランティアを行っている方々への配慮として、暑さ、寒さがしのげる場所(四阿)を検討する。

### ■彫刻の配置について

- 彫刻の作者や寄付をされた方の思いを尊重しつつ、再整備についての理解を当事者の方に得ながら、残す・移転といった方向性を検討する。
- 現在、フラワーロードに残されている「震災メモリー」については、残す方向で検討する。
- 「明日の手型」は、当時の関係者の関心も高く、取り扱いを慎重にするべきである。
- 子どもが近づく場所では、彫刻の安全性(突起物の有無)についても考慮する。
- 彫刻について理解が深まるように、サインや説明等を充実させ、情報提供できるようにする。

### ■水景施設について

- 水盤は、人（子ども）が集まる場所に設置する方がよい。（例：芝生の横で水遊びができる等）また、水盤の近くに人が滞留できる空間を設けることも必要である。
- 北側出入口は、フラットな形状ではなく立体的な水辺形状にしなければ視認性に劣る。
- 物理的な水だけでなく、人の歩き方・滞留でも旧生田川を表すことができる。夏場以外は使われない水景は場所を考慮した方がよい。

### ■夜間景観について

- 大きな芝生広場の照明がポイントとなる。夜間に様々なアクティビティができるような照度確保が必要だが、照明柱が多く建つのは望ましくない。
- フラワーロードから公園内に広がりを持つ夜間照明となるような照明器具の配置を検討した方がよい。

### ■入口部分について

- 東遊園地北東部の入口部分は、公園の顔となるため、再考が必要。公園内に入った感動・舗装材による自然な誘導・公園内に少し入ると広がりを感じられるよう工夫する。

### ■花壇等、自然環境について

- 現在、東遊園地から北側のフラワーロードでは多年草を積極的に活用し、東遊園地部分では一年草を中心に行っているが、新しい花の見せ方を検討する必要がある。
- ローメンテナンスや皆が関わり続けられるような仕組みづくりが必要である。
- 旧居留地協議会で取り組んでいるプランター（100個）との連携が図れるとよい。
- バッタや野鳥の飛来が見られるような多自然型の計画を検討する。
- 異常高温対策や地球温暖化に対応した工夫を考える。